

2019 年度国際教養学部 FD 活動報告書

国際教養学部 2019 年度 FD 委員会委員 後藤邦夫

2017 年度新設の本学部では、1 年次、2 年次、3 年次の授業の円滑な実施、全科目でのアクティブ・ラーニングの活用を中心に以下の活動を実施した。また、次年度の 4 年次の授業実施に向けて、演習や卒業研究の準備を進めた。

1. 当初計画

- 1) 円滑な授業実施
- 2) FD 勉強会・報告会の開催
- 3) FD 講演会の開催
- 4) 教育効果の点検評価
- 5) 教員相互の授業参観の促進

2. 2019 年度活動内容

- 1) 教授会のさいに授業や問題を抱えていると思われる学生に関する情報を交換した。

また、Q2 の ASU 留学プログラムも円滑に実施できた。

複数教員で担当する科目については担当者間の打合せ会議が開催された。

対象科目: 英語関連科目、多元文化論 A など

- 2) 下記の通り報告会を 1 回、研究会を 6 回開催した。

報告会

2019 年 4 月 24 日(水) 16:30-16:45 参加者 20 名

「今年度に初めて開講する演習科目の実施状況に関する情報共有」(講師なし)

研究会

5 月 8 日(水) 17:00 - 18:30 参加者 12 名

講師: 名古屋大学大学院環境学研究科 (教授) 竹内 恒夫 氏

テーマ: 環境政策の最近の焦点

10 月 9 日(水) 16:40 - 18:00 参加者 14 名

テーマ: 学部教員の研究紹介 (第 1 回)

報告者: 神崎 (倫理学、AI 時代のロボット論理学)

箆橋 (環境経済学から sustainability まで)

10 月 23 日(水) 16:25 - 17:40 参加者 15 名

テーマ: 学部教員の研究紹介 (第 2 回)

報告者: 安原 (経済学の歴史、南米での成功と失敗、現代貨幣理論など)

DEACON (短期留学の効果測定プロジェクト、IDI オンライン調査、インタビュー例など)

11 月 16 日(水) 16:40 - 18:00

テーマ: 学部教員の研究紹介 (第 3 回) 参加者 18 名

報告者: 中村 (フランスを中心としたジャーナリズム、論壇雑誌の歴史など)

後藤 (待ち行列理論、ネットワーク性能評価、本学と地域ネットワークの歴史、音楽情報処理など)

12 月 11 日(水) 16:40 - 17:10

テーマ: 学部教員の研究紹介 (第 4 回) 参加者 17 名

報告者: 北村 (日本の文法研究)

2020 年 2 月 5 日(水) 16:30 - 17:00

テーマ: 学部教員の研究紹介 (第 5 回) 参加者 16 名

報告者: 大竹 (ドイツの政治思想、戦争、人道的介入の是非)

3) 講演会は開催しなかった

報告会、研究会を合計7回開催したので、講演会の予定を入れられなかった。

4) 学生による授業評価

4学期とも授業を担当する教員が多いので、全学で実施する「学生による授業評価」の実施回数が多かった。

5) 英語授業で参観1名があった。

FD委員が自分の授業(国際教養学入門、多元文化論A担当回)をビデオ撮影して、それぞれ15分に編集し、同じ授業の担当教員と学部教員に紹介した。

3. 点検評価

1) 効果が上がっている事項

- アクティブ・ラーニングと留学プログラムは成功している。2年次学生の討論、発表スキルが大きく向上したことを、今年度も帰国後の報告会での英語による発表で確認できた。2020年度のASUプログラムのJASSO補助金に採用されることが決定した。(前年度は追加採用)ことから外部評価も高いと思われる。
- FD研究会での教員の研究分野紹介により互いの教育・研究分野の理解が深まった。

2) 改善を要する事項

- 予定していた「教員の主観による教育効果アンケート実施」を検討しなかった。
- 相互授業参観が少ない。授業のビデオ撮影は希望がなかった。

4. 将来の発展方策

1) 効果が上がっている事項

- 集計可能な情報を集計して、学習の進捗を数量的にも把握する。
- 教員の研究分野紹介のFD研究会を全教員一巡するまで継続する

2) 改善を要する事項

- 相互参観の促進には、学部教員が参観しやすいように、公開に適切な内容のコマをアナウンスする。ビデオ撮影と編集の方法を紹介し、各教員がまず自分で撮影してみたものを視聴していただくことを検討する。

以上